

よくある質問

Q 生産緑地とはなんですか？

A 生産緑地とは、市街化区域内の農地等のうち、良好な都市環境を確保し建築行為等を規制することで、都市農地の計画的な保全を図るために指定される農地です。営農継続義務が生じる代わりに、税制面で軽減措置が講じられています。

Q 生産緑地の貸借について教えてください

A 生産緑地の貸借制度は、都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づいて、自ら耕作又は市民農園を開設したい個人又は法人等が事業計画の認定等の一定の手続きを経ることで、農地所有者から生産緑地を借り受けることができる制度です。

Q 貸借した生産緑地で借受者（企業、NPO等）が開設できる農園はどんなものがありますか？

A 開設できる農園は、いわゆる農業体験農園、学童農園、福祉農園及び観光農園等です。
なお、本事業における補助金を受けるためには、都市農地保全と「農」を通じた多世代交流・地域交流の活性化を併せて進める農園である必要があります。

Q 農地貸借、農園開設・運営についてサポートしてもらえますか？

A 農園開設までには、①事前検討、②適地の探索、③農地貸借・開設手続き、④農園運営の順でステップがあります。
このうち、①及び④については普及事業アドバイザーが農園開設のメリットや運営のノウハウについてアドバイスします。普及事業アドバイザーは、シニア層、子ども、福祉、地域等の農園設置目的に応じた詳細なアドバイスができます。
②及び③については、行政等の情報が必要となることが多くありますので、当事務局が東京都や開設地の区市町村の担当部署を紹介し相談・手続きのサポートを行います。

Q 体験農園等普及事業に関する詳しい情報はどこで手に入りますか？

A 体験農園等普及事業の専用サイトを開設しています。このサイトでは、目的やアドバイザー派遣など事業内容の詳細を掲載しています。
農地貸借や農園開設に関する資料（農林水産省提供サイトへのリンク）も参照できます。また、わくわく農園の農園別や他の農園の事例・取り組みも紹介しています。情報は随時更新していますので定期的なチェックをお薦めします。

その他、メール、電話でのお問い合わせについては、
「お問い合わせ先」にご連絡ください。

お問い合わせ先



わくわく
都民農園小金井

わくわく都民農園小金井
(運営：一般社団法人小金井市観光まちおこし協会)
〒184-0004 東京都小金井市本町2-8-6

Mail wakuwaku-advice@koganei-kanko.jp
HP <https://wakuwaku-advice.koganei-kanko.jp>
TEL 042-208-3413(わくわく農園)
携帯 090-4745-4167

◎ 午前9時から午後5時まで(ただし日曜日、月曜日及び12月29日から1月3日までを除く)



東京都

このパンフレットは、東京都が実施している「生産緑地を活用した体験農園等普及事業」の一環として当団体がアドバイザー派遣等委託を受け制作しています。



「農園」をつくって 地域を盛り上げませんか

一 生産緑地賃借による「農園づくり」を応援します

都市の中にある「農園」には、様々な人が農を通じて関わり合うことで、多世代や異分野交流、シニア層の生きがい等多くの効果を生み出し地域活性化につながる可能性があります。また、生産緑地の賃借制度活用により、農地としての機能を維持しながら地域ニーズに応じた農園づくりが可能です。

私たち（一社）小金井市観光まちおこし協会は、こうした農園のモデルとして東京都が整備した「わくわく都民農園小金井」の運営を行っています。そこでは、5種類の農園、食と農のイベント、地域農産物の販売等の多様な事業展開によって様々な対象者や目的に応じた体験・交流ができます。

今後同様の取組を都内各地にさらに波及させるため、令和6年度から、農園の整備・運営に興味のある自治体・事業者からの相談窓口を開設し、個別課題に応じたアドバイザー派遣を行っています。

あわせて、生産緑地を所有されている皆さまからのご相談も受け付けています。農地の将来や管理の負担、地域に開かれた活用方法などについて、体験農園という選択肢を通じた生産緑地の活用をご提案します。制度の概要から具体的な活用イメージまで、状況に応じた相談が可能です。

地域を盛り上げるために「農園」づくりにチャレンジしませんか。ご興味がある方はお気軽にお問い合わせください。



わくわく都民農園小金井（愛称「わくわく農園」）について

～ 運営 ～

わくわく農園は、都市農地の保全、高齢者の活躍、多世代地域交流を目的として、令和4年3月に生産緑地の賃借制度を活用して東京都が整備し、小金井市観光まちおこし協会が運営しています。

～ 事業スキーム ～

東京都、小金井市観光まちおこし協会、小金井市、生産緑地所有者の4者が協定を締結し、「都市農地の賃借の円滑化に関する法律」に基づいて開設運営しています。

～ 事業内容 ～

わくわく農園では、5種類の農園（シニア農園、福祉農園、地域農園、こども農園、共菜園）を展開し、多彩な利用者が農作業を楽しみながら保育園児からシニア層までの多世代交流を実現しています。また、月1回のペースで地元住民向けのイベントやワークショップによる地域交流を進めている他、災害時には一時的な滞在場所として利用することもできます。

- 住 所：〒184-0004 東京都小金井市本町2-8-6
- 電 話：042-208-3413
- メール：info@koganei-kanko.jp
- URL：https://koganei-kanko.jp/form



シニア × 農園

これは農園にはじめて通う方にいただいた言葉です。

土から出てきた芽が愛おしくて水やりを外へ出たくなる。作業を手伝い合い、たくさん採れた野菜の調理方法を教え合って、おいしくいただいた感想も伝え合う。そんな仲間も増えていく。農園は、農産物とともに暮らす人の喜びも育まれる場所。

取組のポイント 効果

- 農作業の楽しさが生きがい・健康につながる
- 農園利用者、スタッフとの交流で新たな人間関係が生まれる
- 土壌や虫、雑草などを通して環境などの学びができる



農園に来るのが
私の生きがい
なってますよ

こども × 農園

土を踏むと足跡がつく。種を蒔くとうまくいったら実をつけてくれる。
自分の関わりに反応があるって安心する。カラカラだから水をあげよう！
気にかかる存在が街にある。「育てている野菜」が私や僕の場所になって役割になる。
農園は安心する気持ちを養い、「やってみたい」が湧いてくる場所になる。
「こんにちは！」水やりやおさんぽ。畑へ行くたび挨拶する人が増えていく。

取組のポイント 効果

- 農作業から発見・工夫・創造が生まれる
- 野菜を育て食べることで農の大切さを知る
- 他の利用者との交流が地域の子育てにつながる

あ！
いいこと
考えた



福祉 × 農園

「収穫適期がわかる」、「体力には自信がある」などみんな自分の強みがわかってくる。
チームで話をしながらの作業が楽しい。
農作業を楽しむことが、社会とつながる気がする。

取組のポイント 効果

- 作物を育てることに参加する楽しみが増える
- 農作業習熟による地元農家への応援・就労の機会が生まれる
- 障がい者の社会参加の仕組みが育つ



地域 商業 × 農園

地元商店会、町会、介護施設、保育園などが連携して地域のつながりができる。
農園で野菜を育てることが顔を合わせるきっかけになる。農作業をしながらのお喋りで困ったことや良いことの共有が出来ていく。地域の多様な立場の方が支え合える関係性を育む。それは地域経済の循環を生むことへ繋がっていく。

取組のポイント 効果

- 農作業を通じて地域の顔見知りが増えた
- 地域の困りごとを気軽に話し合える機会が多くなった
- 商店街・町会・事業所などの連携が深まった



観光 × 農園

苗植えから草とりや摘み取り。
地元産農産物を使った加工ワークショップ。
街の風土を活かし、歴史や文化も織り交ぜた農体験に多様な背景の人が集う。

取組のポイント 効果

- 収穫などいつもと違った特別な体験ができる
- 地元産のとれたて野菜・加工品を堪能



親子で一緒に
季節を楽しめる
イベント最高!!



生産緑地を所有されている皆さまからの ご相談を受け付けています！

生産緑地は、農業生産の場としてだけでなく、体験農園など地域に開かれた農園として活用することで、価値を高めることができます。貸借制度を活用すれば、農地としての機能を保ちながら、管理の負担を抑え、地域に役立つ活用も可能です。

「農地の将来を考えたい」「無理のない形で維持したい」「地域とのつながりを生み出したい」と感じたときが、検討を始めるタイミングです。制度の概要や活用イメージの説明から、具体的な進め方まで、状況に応じて丁寧にご相談をお受けします。

まずはお気軽にホームページのお問い合わせ、お電話、メールでご連絡ください。

※「お問い合わせ先」は最終ページに記載してあります。



- ✓ 農地の将来を考えると…
- ✓ 無理のない形で維持したい
- ✓ 地域とのつながりを作りたい

協力農家のお話

農地は、農作物を生産する場でもあるんですが、災害時の避難場所や広い意味での教育活動の場、福祉との連携の場でもあったり、公的な役割を果たせる場とも言えるんですね。

だから、できるだけ農地を地域に開いていくことで地域や都市農業にとって意味のある活用をしていきたいと考えています。

農地を地域に開いたことでたくさんの方に畑に来ていただいて良かったです。

育てたさつまいもを子どもたちが良い表情で収穫しているのを見た時には、これまでの苦労が報われる気持ちになります。



アドバイザー派遣・補助金を活用して誕生した 体験農園のご紹介

アドバイザー派遣や補助制度を活用して開設された体験農園を紹介します。

アドバイザー派遣により農園開設時の課題解決や運営体制の構築に向けた支援を受けながら、整備費（単年度のみ）・運営費（開設から3年間）を活用し、都市農地（生産緑地）を賃借して、多世代交流や地域コミュニティの形成を実現している事例を掲載しています。

これから体験農園づくりを検討する方にとって、
実践的な取り組みの参考となる内容です。



- アドバイザー派遣、補助金の詳細は最終ページに記載してあります。
- 活用事例は体験農園等普及事業HPの事例紹介ページでも紹介しています。

HPはこちら



体験農園等普及事業から生まれた農園 「シェア畑 吉祥寺北」



企業×農園

課題

- ① 近隣に地域住民が手軽に農体験を行う場所が不足していたため、場を提供するとともに、農園を起点とした地域コミュニティに寄与すること

特徴

- ② 野菜づくりを日常的に楽しめるだけでなく、年間40～50日程度の講習栽培会や収穫体験イベント、ワークショップの実施
- ③ 共用畑の管理作業やイベント準備運営等にも農園利用者の参加を促すパートナー活動の推進
- ④ 利用者同士の多世代交流を促進し、地域内のゆるやかなつながりを育む仕組みの構築

目指すこと

- ⑤ 利用者の家族や地域住民も参加可能な調理・試食イベント、写真コンテスト等を展開し、農を核としたコミュニティ形成の促進
- ⑥ 地域の子どものための食育の場として、災害時の身近な避難場所として等都市農地に期待される多面的な機能が発揮できるようにすること

概要

- 農園名：シェア畑 吉祥寺北
- 場所：練馬区立野町30
- WEBサイト：<https://www.sharebatake.com/farms/tokyo/nerima/kichijojikita>
- 運営主体：株式会社アグリメディア
- 農園の種類：サポート付き市民農園



体験農園等普及事業から生まれた農園 「南平市民農園」

行政
×
農園

課題

- 若い世代の利用が減少したこと
- 個人や家族だけで畑を管理することに、ハードルの高さを感じている方が多いこと

特徴

- 市民農園の一部エリアを、利用者で協力し合い野菜を育てる交流区画スペース、たい肥づくりスペースの用意
- 市民同士が交流によって、栽培知識、農具、農作業等様々なものをシェアすることで、ハードルを下げ、若い層を中心とした農業ファンを増やし、若い世代や子連れも参加しやすい農園としようしている点

目指すこと

- できる限り利用者の主体的な関わりによる農園運営都市における「農に触れる機会」を身近に提供することで、農の重要性和都市農地の意義に対する理解促進を図ること
- 農業者と市民の交流の機会を創出することで、様々な形で援農活動への広がり、将来の日野市の農業の支え手の育成

“南平市民農園”について

南平市民農園は、従来の区画貸しに加え、交流区画スペースを整備した市民農園です。

市民同士が農具や農作業、栽培知識などを共有し合うことで参加のハードルを下げ、子育て世代をはじめとした若い世代の利用が増えています。

また、地域内循環型コミュニティ農園という特徴を活かしながら、利用者の主体的な関りによる農園運営を目指しています。

メッセージ

従来の区画貸しに加えて、交流スペースを設けることで、市民同士が気軽に関われる場をつくっています。農具や作業、栽培のコツを共有できるため、初めての方や子育て世代も参加しやすく、若い利用者が増えてきました。今後は、利用者の方々が主体となって運営していく農園に育てていきたいと思っています。ぜひ見学に来てください！

概要

- 農 園 名：南平市民農園
- 場 所：東京都日野市南平2-68-2
- WEBサイト：<https://www.city.hino.lg.jp/sangyo/nogyo/nouen/1031346.html>
- 運営主体：日野市
- 農園の種類：交流型市民農園



体験農園等普及事業から生まれた農園 「東京まんなか水田 やばたん」

観光
×
農園

課題

- 住宅開発と担い手不足による水田の減少
- 農業体験農園需要の増加に伴う、フィールド及び管理運営者の不足

特徴

- 水田と農業用水でつながり、地域の多世代交流拠点づくり
- 隣接した水田を新たに借り入れて、対象を中高生・学生にも拡大し、多世代交流・地域交流を目的とした農園に農園にリニューアル
- 農業体験農園の管理運営に特化した人材の育成及び体制強化

目指すこと

- 水田地帯としての歴史を引き継ぎ、それらを地域の魅力として発信し、活性につなげること
- 水田や農業用水の管理作業を通したコミュニティづくり等、水田や農園を未来につなげていくこと、そのための仕組みをつくること

“東京まんなか水田 やばたん”について

谷保天満宮のもと1000年以上美しい田園風景と文化をつないできた谷保。

江戸時代には小麦との二毛作で江戸の食を支えました。しかし、この30年で水田の85%以上が消え、加速する宅地開発であと10年残るが危うい状況です。

「やばたん」プロジェクトでは水田の担い手を多世代で育成・雇用し、その管理面積を広げていくことで希少な里山環境を次世代につないでいきます。

メッセージ

この事業で、新たに1,400㎡の水田を任せてもらい、管理圃場が3,500㎡を超えるまでに広がりました。大学生も現場に積極的に関わっていて、将来の担い手育成の場となっています。年間9,000人ほどが訪れる交流の場となり、米ビール「田圃にカエル」の製造や絶滅危惧種「東京ダルマガエル」の保全活動などを通じ、地域の人々や企業、団体とのつながりもより幅広く深まっています。ぜひ、現地にも足を運んでみてください。

概要

- 農 園 名：東京まんなか水田 やばたん
- 場 所：国立市谷保天神下609、610(体験農園1) 国立市大字谷保天神下658～661(体験農園2)
- 農園の種類：水田を利用した体験型農園
- 運営主体：特定非営利活動法人くにたち農園の会
- WEBサイト：<https://k-nouennokai.org/yabotan>



体験農園等普及事業から生まれた農園 「夢育て農園 ちとから」

企業
×
農園

課題

- 畑作業が知的・発達障がいのある方々にもたらず認知・身体機能向上効果に対する認知不足
- 知的・発達障がいのある方々の成長を促す農福連携の場の不足

特徴

- 新たに借り入れた農地で、知的・発達障がいのある方々を対象に、畑作業をしながら、認知・身体機能を高める活動の実践
- 地域のあらゆる属性の方々と共に創っていくユニバーサル農園の運営
- オープンデイをととした地域との交流や農福連携に関心のある企業等呼び込み活動の周知を実施

目指すこと

- 知的・発達障がいのある方々や、高齢者など地域のあらゆる属性の方々が参加できるイベントの実施などを通して、地域に開き交流の機会を創ること
- 知的・発達障がいのある方々の生涯にわたる成長を促す農園利用の形を発信していくこと

概要

- 農園名：夢育て農園 ちとから
- 場所：東京都世田谷区上祖師谷2
- WEBサイト：<https://yume-sodate.com>

- 運営主体：株式会社夢育て
- 農園の種類：交流型市民農園



体験農園等普及事業から生まれた農園 「農Life Koganei」

企業
×
農園

課題

- 貸借農地の有効活用モデル創出
- 地域コミュニティの創出
- 住民が農業に触れる機会が少ないため、農業理解を深める

特徴

- 未経験の方でも安心して参加できるよう、月2回の講習会を実施。ビニール張りなど専門的な作業は運営側が行い、農具も一式揃えているため、利用者は手軽に参加できる環境。
- 個人区画だけでなく共有区画を設け、地域住民や学生との交流の場を構築

目指すこと

- 収穫体験や交流イベントなどを実施し、多世代・多主体が関わるコミュニティ形成を促進し、地域交流や関係人口の拡大、地域活性化を創出する。
- 人との関わりに不安を抱える人でも参加しやすい環境を作り、社会問題の解決への一助とする。
- 体験農園やイベントを通じ都市農地の振興を図る。

概要

- 農園名：農Life Koganei
- 場所：小金井市貫井北町5-13
- WEBサイト：<https://www.highbridgeinc.biz>

- 運営主体：HighBridge 株式会社
- 農園の種類：体験型農園



事業内容と支援プラン

① 事業内容

CHECK! 生産緑地を活用した体験農園等普及事業について

「生産緑地を活用した体験農園等普及事業」は、生産緑地の貸借制度を活用して、令和4年に開設された「わくわく都民農園小金井」（詳細は3ページの「わくわく都民農園小金井について」を参照してください）をモデルとして、同様の取組を他の自治体や民間事業者等に波及させることを目的とした事業であり、令和6年4月から実施しています。

本事業では、農園整備・運営、農園を使った地域交流等に興味のある自治体や民間事業者向けに①相談窓口の設置、②興味喚起・醸成のためのDM等によるアプローチ、③個別課題に対応した普及事業アドバイザー派遣を実施することで、農園の開設準備から農園運営までをサポートします。

② 支援プラン

CHECK! アドバイザー派遣

普及事業アドバイザーが課題別に農園設置・運営について直接アドバイスします。体験農園を始めたいが「誰と相談すればいいか」、「手続きはどうしたらいいか」、「運営に必要な体制は」といったお悩みについて、実際の農園運営で培ったノウハウを基に相談者の皆さんと一緒に考えて対応策を考えます。

CHECK! 補助金プラン

● 補助対象者

生産緑地の貸借制度により借り入れた都市農地を活用し、都市農地保全と「農」を通じた多世代交流・地域交流の活性化を併せて進める体験農園等の整備・運営を行おうとする個人事業主、法人及び地方自治体

● 補助対象

- ・整備に関する費用 工事費、農業機械等
- ・運営に関する費用 農園管理に係る人件費、生産緑地賃借料 等

● 補助率及び上限額・整備に関する費用

○ 整備に関する費用

補助率	1/2以内	補助上限額	1,000万円
-----	-------	-------	---------

○ 運営に関する費用

補助率	1年目 … 2/3以内	補助上限額	1年目 … 1,000万円
	2年目 … 1/2以内		2年目 … 750万円
	3年目 … 1/3以内		3年目 … 500万円

● 受付窓口

東京都産業労働局農林水産部農業振興課

補助金対象となる農園開設手続きの例



詳しくはこちらをご覧ください

